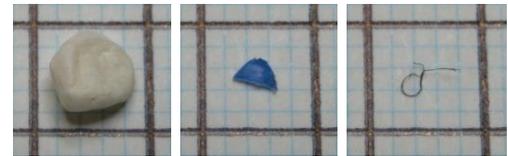
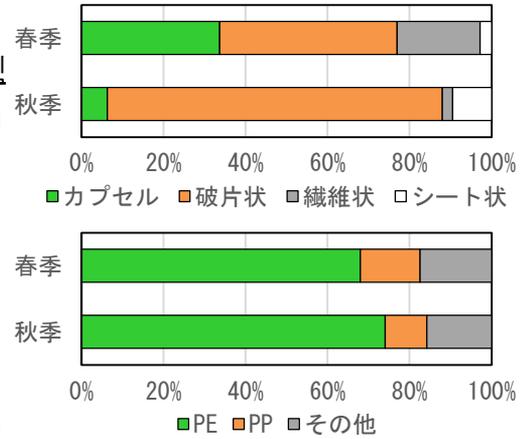
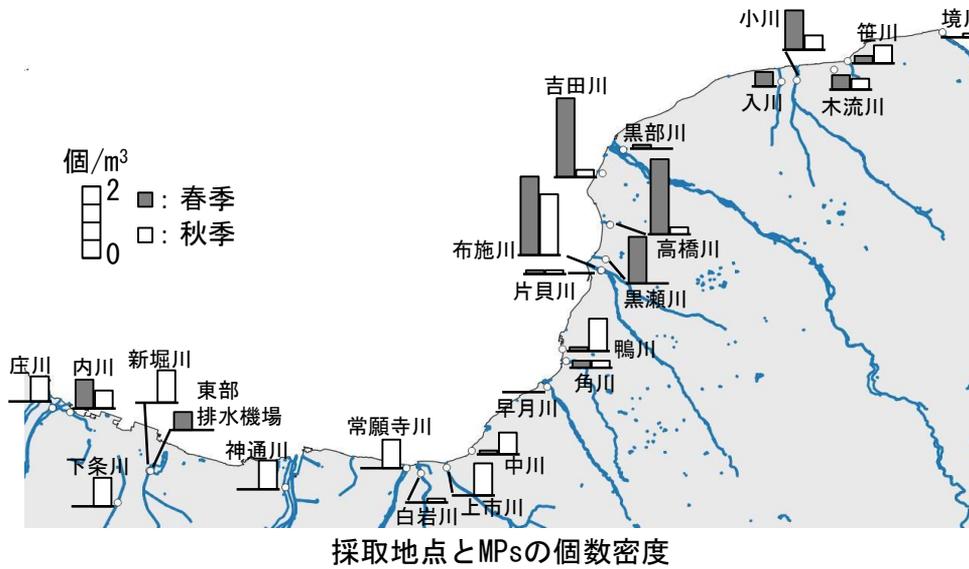


# マイクロプラスチックの実態調査

県では令和2～4年度に、マイクロプラスチック（MPs）が内陸から海へ流出・漂流する実態を把握するため、河川等で調査を行いました。

## 調査結果

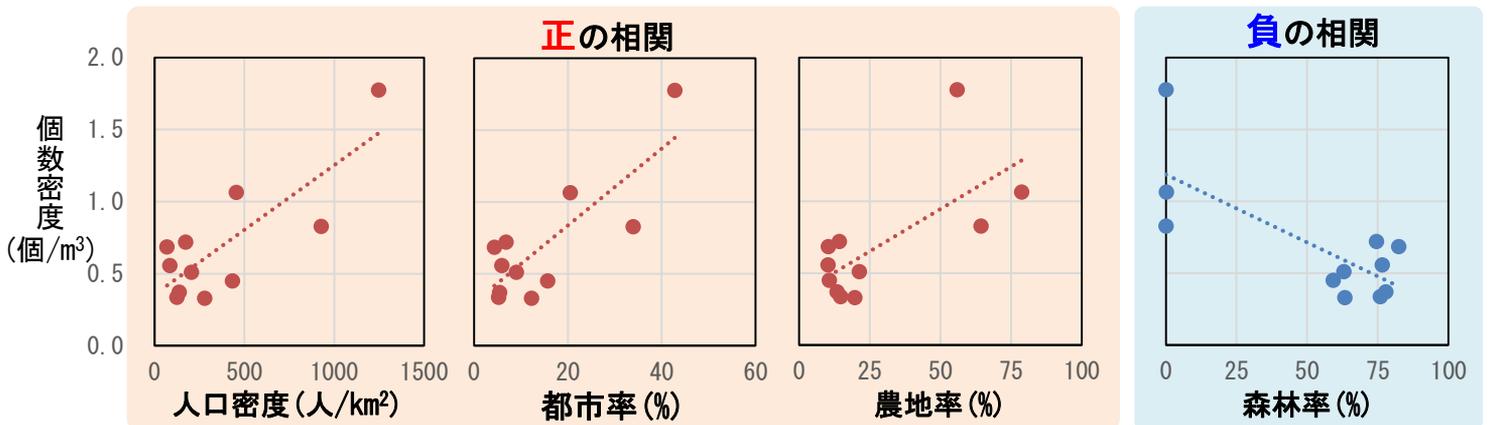
### <MPsの分布実態の調査>



採取されたMPs  
(肥料カプセル、破片状、繊維状)

- ・ 全体的に秋季より春季のMPsが多い。
- ・ 肥料カプセル（春季）と破片状のMPs（春季・秋季）が多い。
- ・ ポリエチレン（PE）が多い。

### <河川の流域の利用用途とMPsの量>



※神通川流域、小矢部川流域16地点で調査。肥料カプセルは除く。

※流域背景は国土数値情報 流域メッシュデータ・土地利用細分メッシュ、e-Stat 人口及び世帯からGISを用いて算出。

- ・ 人の活動がさかんな地域ほどMPsが多い。
- ・ 農用地は肥料カプセル以外のMPsも多い。

## 調査結果から考えられること

- ・ 春季に肥料カプセルが多く採取されました。農業部局において、カプセルの素材の転換やプラスチックを使用しない肥料の開発が行われていますが、今までに使用された肥料カプセルが水田から流れ出ないよう、引き続き田植え時期の流出防止策が重要です。
- ・ 人の活動がさかんな都市部や農用地でMPsが多く採取される傾向にあることがわかりました。プラスチックごみや屋外で使用されるプラスチック製品の適正管理などの対策が必要です。